

庭野平和財団 助成事業完了報告書

助成対象事業 : 次世代のジャーナリズムを支援する「ジャーナリズム“X”アワード」の創設・運営
 助成対象者（代表） : 一般社団法人アクト・ビヨンド・トラスト (abt) (星川 淳) 印
 助成金 : 1,198,000 円

1. 助成事業の具体的な内容

- ・ ジャーナリズム支援市民基金の幹事会（全5名）で戦略会合を全3回開催し（助成期間以前も含めると全5回）、「ジャーナリズムXアワード」（以下、JXA）を創始した。
 - 第1回戦略会合（2019年9月1日）……ビジョン&ミッションについて
 - 第2回戦略会合（2019年11月7日）……応募要項、ウェブサイトについて
 - 第3回戦略会合（2020年8月29日）……第1回JXAの振り返り、持続可能な組織運営について
- ・ JXAのウェブサイト<<https://jxaward.com/>>を開設し、2019年12月24日に同サイトにて第1回「ジャーナリズムXアワード」を公開、公募をスタートした。広報手段としては、ウェブサイトの他、Facebookページ<<https://www.facebook.com/journalismXfund/>>、Twitter<<https://twitter.com/jxaward>>、プレスリリースの発出、個人や団体へダイレクトメール送付、フライヤーを配布した。また、2020年1月28日には、アワードの公募開始を記念して記者発表会&キックオフイベント@渋谷ヒカリエを開催した。
 - ◇ 日時：2020年1月28日（火）13:30~15:30
 - ◇ 場所：渋谷ヒカリエ ルームC
 - ◇ プログラム：
 - 13:30 開会の挨拶「市民1人ひとりが支えるジャーナリズムの必要性」 星川淳（代表幹事）
 - 13:45 第1回「ジャーナリズムXアワード」について
 - 14:00 選考委員の紹介と挨拶
 - 14:20 日本における新たなジャーナリズム活動事例の紹介
 - ・ NPO法人ワセダクロニクル
 - ・ 認定NPO法人 Ourplanet-TV
 - ・ NPO法人 greenz
 - 15:00 ジャーナリズム支援市民基金が描く社会ビジョンについて 関本幸（運営幹事）
 - 15:10 質疑応答
 - 15:30 閉会
- ・ 2020年3月17日に募集を締切ったところ、全68件（うち、自薦58件、他薦10件）の応募が集まった。一次選考（5/30@オンライン）は運営幹事5名とアドバイザー2名で実施し、計19件を二次選考の対象として選出した。さらに、運営幹事に外部選考委員2名（田口一成（株式会社ボーダレス・ジャパン代表取締役社長）、林怡蓀（リン・イーシェン）（立教大学社会学部教授））を加えたメンバーで二次選考（6/30@オンライン）を実施し、最終的な授賞対象として6件（X賞1件、Y賞1件、Z賞4件）を選定した。
 - ◎ X賞（賞金100万円）……NPO法人 ワセダクロニクル
 - Y賞（賞金30万円）……認定NPO法人 難民支援協会（ニッポン複雑紀行）
 - ・ Z賞（賞金各5万円）……志葉玲
 - The Informed-Public Project
 - せやろがいおじさん（榎森耕助/株式会社SITY）
 - IDEAS FOR GOOD（ハーチ株式会社）
- ・ 選考結果はウェブサイトで公開するとともに、FacebookとTwitterで発信、プレスリリースも発出した。なお、二次選考の対象として選出した19件中13件をノミネート案件としてウェブサイトで公開した。
- ・ 受賞案件の決定後には、アワードと支援基金の社会的認知促進と、市民と非営利メディアや独立系ジャーナリストとの協働の気運を高めることを目的に、第1回JXAの授賞式&記念シンポジウム@都内を開催予定だったが、COVID-19の感染拡大防止のため残念ながら中止とした。

2. 設定目標の達成状況

目標・成果を達成できたか	
<ul style="list-style-type: none"> ジャーナリズム支援市民基金の幹事会で戦略会合を全3回開催し、「ジャーナリズムXアワード」を創設、最終的な授賞案件として6件（X賞1件、Y賞1件、Z賞4件）を選定した。 第1回「ジャーナリズムXアワード」の授賞式および記念シンポジウムは、COVID-19の感染拡大が続く状況のため残念ながら中止とした（予定では、都内で7月開催だった）。公表の方法は、ウェブサイトおよびSNSでの公開、プレスリリースに限られた。 ジャーナリズム支援市民基金が最終的に目指したい事業展開の基礎固めのため、3回目の戦略会合では、第1回アワードの反省とともに持続可能な組織運営について話し合った。 	
企画完了時の目標達成度をパーセントで自己評価すると：	70% (授賞式&シンポジウムを開催できなかったため)

3. 実施状況

2019年 9月	9/1 第1回戦略会合@浜松町の開催 <ビジョン&ミッションについて> 年間予算、事業計画の見直し ビジョン&ミッションの精査
10月	JXA ロゴの検討、制作 JXA ウェブサイトの検討、制作
11月	11/7 第2回戦略会合@新宿の開催 <応募要項、選考基準、ウェブサイトについて> 記者発表会&キックオフイベントの企画検討、会場の確定
12月	ウェブサイト公開、12/24 公募スタート
2020年 1月	1/28 記者発表会&キックオフイベント@渋谷の開催 広報活動に注力
2月	広報活動に注力
3月	3/17 公募締切 応募案件リストの作成、案件評価の方法、選考基準の見直し
4月	選考審議用にエントリーシートの作成（応募情報整理、応募要件チェック、検討ポイント抽出） 参考資料（書籍、DVD等）の追加購入 一次選考委員（運営幹事）へ資料発送
5月	一次選考の評価提出の締切、集計 5/30 一次選考会の開催@オンライン、二次選考対象（ノミネート）案件（全19件）の選出 一次選考会の議事録まとめ、二次選考委員（外部委員2名）に資料発送
6月	二次選考の評価提出の締切、集計 6/30 二次選考会の開催@オンライン、受賞候補案件（全6件）の選出 二次選考会の議事録まとめ
7月	7/29 第1回JXA受賞案件の決定、公開（ウェブサイト、Facebook、twitter、プレスリリース） 受賞者へ記念品の送付
8月	受賞者へ賞金の振込完了 運営幹事に振り返りシートを送付 8/29 第3回戦略会合の開催 <第1回JXAの振り返り、持続可能な組織運営について>

4. 成果物／メディア・カバレッジ

【キックオフ、公募告知】

1. JXA サイト発信： 2020/2/7 ジャーナリズムX（エックス）アワード公募開始記念 記者発表会&キックオフイベント開催報告 ―― 市民の視点でジャーナリズムの新しい形を探り、応援する
<https://jxaward.com/news/228/>
2. メディア・カバレッジ： オルタナ 市民が支える「ジャーナリズムXアワード」
<http://www.alterna.co.jp/29430>

【受賞について】

1. JXA サイト発信： 2020/7/29 第1回ジャーナリズムXアワード（JXA）の受賞案件を選定（計6件）
<https://jxaward.com/winner/301/>
2. メディア・カバレッジ： 2020/8/19 Yahoo! ニュース（琉球新報）
「せやろがいおじさん」に奨励賞 第1回ジャーナリズムX賞「壁突き破った」 環境調査 IPP も
<https://news.yahoo.co.jp/articles/0febf6fb7daec1d22ed6f1abfd195031df2446e8>
3. メディア・カバレッジ： 2020/8/3 沖縄タイムス（紙版） ※別添
「県の団体・個人 選考委員奨励賞 ジャーナリズムアワード」
4. メディア・カバレッジ： 2020/8/17 Global Investigative Journalism Network
Japan: Waseda Chron Honored with X Award
<https://gijn.org/rounduplink/>
5. メディア・カバレッジ： 2020/8/4 ヨコハマ経済新聞
「Circular Yokohama」に取り組むハーチが、ジャーナリズム支援市民基金「ジャーナリズムZ賞」を受賞
<https://www.hamakei.com/headline/10981/>

【受賞者コメント】

1. 2020/7/30 ワセダクロニクル
ワセクロが第1回ジャーナリズムXアワードを受賞、「非営利の探査報道フロントランナー」
<https://www.wasedachronicle.org/articles/press/p5/>
2. 2020/8/3 ニッポン複雑紀行
第1回ジャーナリズムXアワードでニッポン複雑紀行の活動に賞をいただきました。一人ひとりの読者や作り手、そして何よりも信頼してお話を聞かせてくださった方たちのおかげです。ありがとうございます。今後も地道に発信を続けていきますのでどうぞよろしくお願いします。
<https://twitter.com/nipponfukuzatsu/status/1290059770406113280>
3. 2020/7/3 志葉玲
皆さんの応援のお陰です。感謝！
<https://twitter.com/reishiva/status/1288766558232145920>
4. 2020/8/4 IDEAS FOR GOOD
第1回ジャーナリズムXアワードでジャーナリズムZ賞（選考委員奨励賞）を受賞しました！
https://harch.jp/media-news/ideas4good/ideas4good_news_202008.html
https://twitter.com/Harch_Inc/status/1290444198559256577
5. 2020/8/19 河村雅美
琉球新報の記事がYahoo ニュースにもでました。記者さんからもお祝いのメッセージいただきました。みなさんありがとうございます。
<https://www.facebook.com/masami.m.kawamura/posts/4474057369301072>

5. 実施による学び

【アワード終了後の戦略会合の議事録よりピックアップ】

- ・ そもそも優劣では比較できないものを比べ、「注目すべきジャーナリズム」を選出する活動なので、明確な選定理由が必要になる。次年度は、選考過程と公表については工夫したい。例えば、「今、“環境”というテーマが重要だと考えているので最も象徴する団体を選んだ」など、活動・作品の質も大事だが同時に扱うテーマ性、個人と団体、若さなど軸があると評価しやすいかもしれない。
- ・ ジャーナリズムを扱う以上、外へのアピールは重要だからインフルエンサー的な人は必要。外部選考委員や、募集時期の広報などで協力者の探索は続けたほうがいい。また、ファンドレイジングにおいても、本アワードが如何に社会において有意義なのかを広く発信して、共感が得られることで寄付へとつながるので、やはり市民から認知されている芸能人や著名な有識者の協力はあったほうがいだろう。
- ・ プログラム設計、応募要項の作成、募集開始から締切、選考（一次、二次）、結果公表という一連の流れを経験し、一定のノウハウを得ることができた。第2回は実施運営を省力化し、1年目には進めることができなかったファンドレイジングの取り組みを強化させていきたい。
- ・ 選考結果の公表の仕方については十分な注意が必要。アワード事務局としては、日本のジャーナリズムを育てていくためには、市民自身が考えるジャーナリズムの多様性を広げることが重要という考えのもと、最終的な受賞者（X賞、Y賞、Z賞）に惜しくも漏れてしまったノミネート案件についても広く社会に公表したかったのだが、受賞できなかったことをかなりネガティブに捉える人もいることが分かった。今後の、本アワードの大きな課題の一つだと考えている。
- ・ 第1回ジャーナリズムXアワードには68件（自薦58件、他薦10件）が集まったが、うち18件が事務局スタッフの個人人脈によるところが大きい。次年度以降の広報の際は、新聞掲載、SNS広告、Web媒体による取材記事なども積極的に検討したい。

6. 写真等

1/28 記者発表会&キックオフイベント@渋谷



1/28 記者発表会&キックオフイベント@渋谷



ジャーナリズムXアワード ウェブサイト トップページ



受賞者の記念品

